

飛び出す人文・社会科学～津々浦々学びの座inたつの

日本型地域ネットワークと地域通貨研究グループ長

岡田真美子(兵庫県立大学環境人間学部教授)

このたび、(独)日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業の一環として、研究者と市民が語る場を提供する「学びの座」が開設されることになりました。本研究グループでは、地域ネットワークの研究者が地域へ赴いて、市民のみなさんとひざを交えて話をし、たのしい知のキャッチボールをする企画をいたしました。昨年総務省の地域通貨実証実験をおこなわれたたつの市で、地域通貨実験の感想を伺い、その将来と、地域 SNS との協働の可能性などについて、打ち解けて知の交換を行いたいと存じますので、万障お繰り合わせの上ご参集いただきますようお願い申し上げます。

日時 2007 年 7 月 20 日(金)18.00-20.00

場所 ふれあいギャラリー下川原 兵庫県たつの市龍野町下川原

プログラム

- 18:00 主催者挨拶 岡田真美子 会の趣旨説明、ゲスト・スピーカー紹介
- 18:05 ゲストショートスピーチ「地域通貨とんぼ」(田中彰人 長坂泰成)
- 18.35 「とんぼ」をめぐっての寄り合い話 (休憩 10 分)
- 19:15 地域通貨と地域 SNS をめぐってのワークショップ
- 19:50 終わりの挨拶
- 20:00 閉会

【企画】岡田真美子・兵庫県立大学環境人間学部教授 人社プロジェクト研究グループ長

【たつの側参加者】順不同 敬称略

田中章人 たつの市総務部情報推進課主査

出口英作 出口化学

内海基和 たつの市産業部商工観光課主査

加藤真司 たつの市公営企業部志んぐ荘業務係長

木村貴弘 龍野ショッピングセンター きむら(学生服・化粧品)

長坂泰成 財団法人童謡の里龍野文化振興財団副主幹

龍野地区まちづくり協議会事務局次長

峰大二郎 神戸新聞たつの支局

【人社メンバ】

行司高博 兵庫県県民政策部政策局地域振興課

松田竜一 兵庫県県民政策部政策局ビジョン課課長補佐(ビジョン担当)

大坪慎一・NPO 法人千姫プロジェクト監事 大坪税理士事務所長

和崎宏・インフォミーム株式会社代表取締役 地域 SNS ひよこむ

熊谷哲・ 兵庫県立大学 西播磨地域ビジョン委員会

古賀弘一 兵庫県立大学大学院博士後期課程 西播磨県民局嘱託

【お問い合わせ】兵庫県立大学環境人間学部岡田研究室

TEL079-292-9315 (10-14 時) okadamk@shse.u-hyogo.ac.jp

人文・社会科学振興プロジェクト研究事業

人文・社会科学振興プロジェクト研究一覧

平成18年7月現在

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 I 知の遺産を始めとする日本の在り方と今後の変容について研究する領域	I-1 日本の知的資産の活用	桑子 敏雄 東工大・社会理工・教授	日本文化の空間構築	桑子 敏雄 東工大・社会理工・教授
	I-2 「失われた10年」の克服 —日本の社会システムの再構築—	青島 矢一 一橋大・イノベーション研・助教授	日本型地域ネットワークと地域通貨	岡田 真美子 兵庫県立大・環境人間・教授
			日本の品質管理の検証	加登 豊 神戸大・経営・教授
			日本の組織・人材育成システム	石川 淳 立教大・社会・助教授
	I-3 これからの教養教育	鈴木 佳秀 新潟大・現代社会・教授	日本の教育システム	荻谷 剛彦 東大・教育・教授
			教養教育の再構築	葛西 康德 大妻女大・文・教授
			グローバル化時代における市民性の教育	佐藤 学 東大・教育・教授

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 II グローバル化時代における多様な価値観を持つ社会の共生を図るシステムについて研究する領域	II-1 平和構築に向けた知の展開	黒木 英充 東外大・AA 研・教授	地域研究による「人間の安全保障学」の構築	黒木 英充 東外大・AA 研・教授
			ジェノサイド研究の展開	石田 勇治 東大・総合文化・教授
			アメリカ研究の再編	古矢 旬 北大・法・教授
	II-2 多元的共生社会の構築	宇田川 妙子 人間文化・民博・助教授	運動の現場における知の再編の解明	宇田川 妙子 人間文化・民博・助教授
			被災地の現場における共生社会の構築	岩崎 信彦 神戸大・文・教授
			多元的共生に関する国際比較の研究	辻中 豊 筑波大・人社・教授
	II-3 グローバル・ガバナンスの解明	遠藤 乾 北大・公共政策・教授	重層的ガバナンスの理念と実態の解明	遠藤 乾 北大・公共政策・教授
			帝国とネットワーク—アジア広域経済秩序の解明	籠谷 直人 京大・人文研・教授
	II-4 水のグローバル・ガバナンス	中山 幹康 東大・新領域・教授	越境影響評価と水のガバナンス	中山 幹康 東大・新領域・教授
			「青の革命」と水のガバナンス	蔵治光一郎 東大・愛知演習林・講師

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 III 科学技術や市場経済等の急速な発展や変化に対応した社会倫理システムのあり方について研究する領域	III-1 ボトムアップ人間関係論の構築	佐藤 達哉 立命館大・文・教授	社会変化と人間関係の諸相	佐藤 達哉 立命館大・文・教授
	III-2 医療システムと倫理	清水 哲郎 東北大・文・教授	医療現場における意思決定・問題解決・協働	清水 哲郎 東北大・文・教授
			医療システムと医療専門家組織、保険者、民間保険機関の役割	吉田 あつし 筑波大・システム情工・教授
	III-3 科学技術ガバナンス	城山 英明 東大・法政・教授	日本のリスクガバナンス・システムの実態解明と再構築の提言	平川 秀幸 阪大・CDS・助教授
			現場からの技術者倫理システム	大上 泰弘 帝人ファーマ・主任研究員
			科学技術の進展と国際問題—安全保障リスクのガバナンス—	鈴木 達治郎 電力中央研・上席研究員
	III-4 市場システムのガバナンス	久米 郁男 早稲田大・政経・教授	政策システムと専門知	久米 郁男 早稲田大・政経・教授

			市場補完・統御の法制度設計に向けた知の再編	藤谷 武史 北大・法・助教授
--	--	--	-----------------------	-------------------

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 IV 過去から現代にわたる社会システムに学び、将来に向けた社会の持続的発展の確保について研究する領域	IV-1 千年持続学の確立	木村 武史 筑波大・人社・助教授	心性の持続性に関する学融合的研究	木村 武史 筑波大・人社・助教授
			都市の持続性に関する学融合的研究	村松 伸 東大・生産研・助教授
			社会制度の持続性に関する学融合的研究	加藤 雄三 人間文化・地球研・助手
	IV-2 豊かな人間像の獲得	小長谷 有紀 人間文化・民博・教授	産育の現場からの考察	松岡 悦子 旭川医大・助教授
			伝承の現場からの考察	小長谷 有紀 人間文化・民博・教授
			家族と人口変動の現場からの考察	津谷 典子 慶應大・経済・教授
	IV-3 資源配分メカニズムと公正	佐藤 仁 東大・新領域・助教授	分配問題としてのインフラ／資源開発	湊 隆幸 東大・新領域・助教授
			貧困・格差研究	青山 和佳 和洋女大・人文・助教授

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 V 現代社会における言語・芸術・芸能表現の意義と可能性について研究する領域	V-1 伝統と越境—とどまる力と越え行く流れのインタラクション—	沼野 充義 東大・人社・教授	自己表象の生成と変容	柏木 博 武蔵野美大・造形・教授
			越境と多文化	楯岡 求美 神戸大・国際文化・助教授
			伝統から創造へ	福岡 正太 人間文化・民博・助教授
	V-2 日本の文化政策とミュージアムの未来	木下 直之 東大・人社・教授	都市政策の課題と芸術文化の役割に関する研究	小林 真理 東大・人社・助教授
			ミュージアムの活用と未来—鑑賞行動の脱領域的研究	五十殿 利治 筑波大・人間総合・教授
	V-3 文学・芸術の社会的媒介機能	吉岡 洋 情報科学芸術院大・教授	文学・芸術の社会統合的機能の研究	山田 広昭 東大・総合文化・教授
			芸術とコミュニケーションに関する実践的研究	藤田 治彦 阪大・文・教授

人文・社会科学振興プロジェクト研究事業

研究領域の概要及びプロジェクト研究概要

研究領域 I 知の遺産をはじめとする日本の在り方と今後の変容について研究する領域

Research on Japan's current state, including its intellectual heritage, and future transformation

研究領域の目的:

20世紀から21世紀への転換のなかで、戦後の日本社会を支えてきた価値観が大きく変化している。バブル経済の崩壊とその後の90年代には、経済の成長を豊かな社会の実現と考えてきた人々がその幻影から目覚める機会を与えられたにもかかわらず、失われた10年の意義については十分究明されず、他方、モノの豊かさから心の豊かさへの転換をどのように行ったらよいのかはいまだ見えていない。この10年は、同時に、大学をはじめとする教育システムに大きな変化が起こった期間でもあった。

このような状況のなかで、戦後の経済成長中心の社会で失われてきた日本の自然、社会や教育の在り方等が再び問われようとしている。

本研究領域は、20世紀の日本の在り方を問い直すプロセスのなかで、現代日本の教養教育の問題点やその再構築の方向を明らかにするとともに、知の遺産の活用法や組織・企業のあり方をはじめとする日本の在り方と今後の変容について研究し、現代の社会経済システムをはじめとする日本社会の抱える問題群に対して、その解決の方向や具体的な解決策を示すための研究を行うことを目的とする。

研究領域 I Project Number I - 1 日本的知的資産の活用 (Use of Japan's Intellectual Heritage)

プロジェクト研究名: (英訳名)

プロジェクト・リーダー名: (所属機関・部局・職)

桑子 敏雄
東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授

 <http://www.shse.u-hyogo.ac.jp/okadamk/jinsha/>

プロジェクト研究の目的:

有限な土地と資源とを分配し、また管理してきた日本的システムは、無限な資源を前提とする欧米的な分配システムとは異なった様相を示してきた。ところが、日本の社会に蓄積されたこうした分配システムを統御する知的資産は、従来の欧米追随型の学問研究の目では十分に評価されることがなかった。

本研究は、有限な資源という大前提のもとでしか生き残ることのできない現在の地球社会において活用可能な日本的知的資産を「空間」と「ネットワーク(縁)」というキーワードでとらえようという試みである。本研究では、日本の地域社会や文化のなかに蓄積されているさまざまな知的資産を掘り起こし、これからの国土や環境のあり方、それを実現する行政と市民、市民と市民のコミュニケーションのあり方をどのように現実

社会に活かすことができるかという課題を追究する。

また、「空間とネットワーク」をキーワードに、「伝統的知(地域社会に蓄積されて経験や知恵)と現代的知(NPOやICT等を含む)の接点を考察するとともに、両者を融合させる試みを行う。

本研究では、国や地方自治体等、あるいは企業、NPO、あるいは市民との連携をめざすとともに、フィールドワークとワークショップを統合的に組織する研究方法を「フィールドワークショップ」として展開する。この方法では、専門的知識をもつメンバーが課題とする空間での体験を共有するなかで問題そのものを明らかにし、また解決案を見いだすための討議を行いつつ提案する。また、これをベースにして解決案を支える理論の構築を行う。この意味で、欧米からの理論を輸入・紹介するといった従来型の学問のあり方とまったく逆の方向をとるとともに、海外の研究者にも参加してもらうことによって、海外への情報発信をもめざす。

研究グループ名:
(英訳名)**日本型地域ネットワークと地域通貨**
(Japanese Regional Network and Currency)**グループ長名:**
(所属機関・部局・職)

岡田 真美子
兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究グループの目的:

<研究目的>

- 従来言われてきた地域の二つの縁:地縁血縁では解決できない地域の課題に取り組むために――
- 地域にどのような伝統的縁(寄り合い・結縁を含む)があり、それをどのような形で現代に継承・再生させるか、この縁を支える伝統知と現代的知(NPO、ICT等を含む)の接点はなにか、を探索し、双方の知を融合させることによる相乗効果の醸成をねらう。
- 地方分権時代の地域づくりのためのハード(ネットワーク組織の形態、地域空間形成)とソフト(コミュニケーション)を提案する。

<研究の重要性・必要性・学術的意義>「フィールドワークショップ」法の確立

- 従来の文献研究中心のデスクワークによる人文科学研究は現代社会の変化を捉えるのには不十分である。また客観科学的であると言われている実験室内でのナンバークランチャー的研究や従来の統計調査研究の手法にも批判がでてきた。桑子プロジェクトでは、よりクリニカルなフィールドワーク&ワークショップによる研究の手法(フィールドワークショップ法)を確立することが期待される。

<社会への貢献>

- 産官学民など社会を支えるさまざまな主体が融合的に機能してゆく道を研究の過程で開発することができる。
パイロット事業において兵庫県と協働主催した「場と縁の継承・再生国際会議 (ISSN)」は、行政機関、教育研究機関、NPOなどを結んで融合的に企画運営された。
また、西播磨県民局の地域ビジョン推進方策の重要な柱の一つに地域通貨活動の展開が組み入れられたのも、本プロジェクトの成果であるといえる。
このふたつの事業成功の鍵は、伝統的な寄り合い・結縁をICT技術の助けをかりて現代的に展開したことにある。これらの事業を進めるプロセスですでに伝統的コミュニケーション法は現代の社会的ニーズに立派にこたえるものであることを確信したわけであるが、さらに続く3年間でこのコミュニケーション法の確立と洗練を目指す。
- 従来の都市研究・まちづくり政策の多くは「問題発見」「計画策定」「モデル化」「数値評価」をめざしてきたと言ってよい。しかし地域づくり活動に従事している現場から見れば、それらの計画、モデルが実際には機能し得ず課題解決にいたらないことが多いということが明らかになってきた。
- 本研究は、「伝統知と地域力を生かすフィールドワークショップ法」によって地域研究、地域づくり活動を進め、この2ヵ年でISSN、地域通貨活動、地域の環境学習などの面においてすでに成果を見せ始めている。これをさらに進める中で、あたらしい官民の連携のあり方を実践的に示しながら、地方の時代の哲学を提案することが可能である。

たつの市地域通貨 とんぼ

活力あふれる通貨交流と協働のまちづくり
～地域通貨モデルシステムの開発実証事業実施報告～

平成18年11月23日～平成19年1月31日

たつの市



たつの市の概要

たつの市は、平成17年10月1日に龍野市・新宮町・播磨川町・御津町が合併し誕生しました。兵庫県の南西部の西播磨地域に位置し、東西15.7km、南北29.2kmで210.93km²の面積を有し、南北に長い地形になっています。

市域の約半分を山林が占め、山林で培われた肥沃な土や水が市域を縦断する一級河川播磨川を介し、市南部の瀬戸内海に注がれ、豊かな漁場を作っています。

また、国指定史跡の新宮宮内遺跡、国指定重要文化財の賀茂神社、龍野城と脇坂藩5万3千石の城下町に連なる古い町並み、国指定重要文化財の永富家住宅などの建築物、江戸時代に海の宿駅として栄えた室津港などの歴史的資源も豊富に有しています。

さらに、世界最高性能の大型放射光施設Spring-8をはじめ、兵庫県立粒子線医療センター、兵庫県立大学など学術研究機関が集積している播磨科学公園都市では、先端科学技術の研究と産業創出の拠点として整備が着々と進められ世界から注目を浴びています。



たつの市の現状と課題

◎ 合併後のまちづくり

現 状	課 題
たつの市が一体感をより強めていくためには、市民がそれぞれの地域について十分理解することが大切	イベントなどのソフト施策の展開により、広く市民同士の交流を進める必要がある

◎ 地域産業

現 状	課 題
(第1次産業) 農業や漁業といった自然環境を生かした産業を展開 (第2次産業) 古い歴史を持つ地場産業が発達する一方、先端技術産業の発展が期待されている (第3次産業) 消費行動の広域化による商業圏の拡大、大型店舗やコンビニエンスストアの立地、沿道型商業の発達など商業環境が大きく変化	(第1次産業) ・高齢化や後継者不足の問題 ・担い手の育成や生産基盤の拡大により、足腰の強い産業に育てていく必要がある (第2次産業) ・中小企業も多く、経営基盤の強化やさらなる人材育成などに取り組む必要がある (第3次産業) ・小規模小売店や既存の商店街の振興などの方策が課題

◇ 地域通貨導入のねらい

- 地域のイベントへの住民参加
- ボランティア活動への住民参加
- 各種公共施設の利用促進

↓

地域の活性化

合併後の一体感とコミュニティ活動などの推進

◇ 地域通貨『とんぼ』について

名称 『とんぼ』

- ・ たつの市が、童謡「赤とんぼ」の作詩者「三木露風」の生誕地であることにちなんで命名
- ・ 平成15年から、龍野地区(川西地区)で地域通貨(紙幣)の流通実験を行った実績があり、住民になじみ深い

通貨価値

参加者相互のやり取りでは、特に定めない
公共施設で利用する場合は、「1とんぼ＝1円」を基本に設定

対象地域

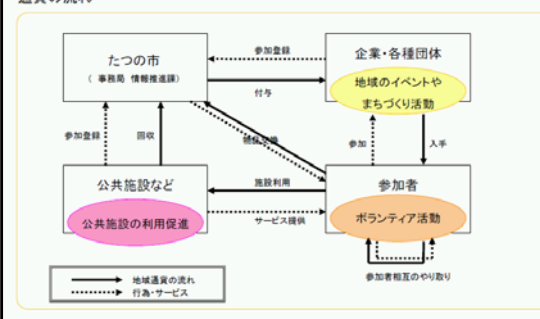
市内全域

参加者

とんぼ運営の理念に賛同し、参加する個人、企業、各種団体
団体の利用 ... 団体が実施する地域やまちづくり活動への参加者に対して地域通貨を付与することで、その活動をより活性化させる

◇ 地域通貨『とんぼ』について

通貨の流れ



```

graph TD
    City[たつの市  
(事務局 情報推進課)]
    Org[企業・各種団体]
    Event[地域のイベントや  
まちづくり活動]
    Public[公共施設など  
公共施設の利用促進]
    Participant[参加者  
ボランティア活動]

    City -- "参加登録" --> Org
    Org -- "付与" --> City
    Org -- "参加登録" --> Event
    Event -- "付与" --> Org
    Event -- "参加" --> Participant
    Participant -- "入手" --> Event
    Participant -- "施設利用" --> Public
    Public -- "サービス提供" --> Participant
    Participant -- "参加者相互のやり取り" --> Participant
  
```

地域通貨の流れ: 実線矢印
 行為・サービス: 点線矢印

たつの市地域通貨『とんぼ』

◇ 地域通貨『とんぼ』について

通貨の形態

- 電子とんぼ
 - ・ 住基カードで利用 …… 15歳以上で市内在住の方
 - ・ 携帯電話で利用 …… 外国人、15歳未満の方、市外在住の方、企業、各種団体など
- 紙幣
 - 『 とんぼ紙幣 』 …… 専用端末を設置していない施設や参加者相互のやり取りに使用
 - 『 とんぼポイント引換券 』 …… 大きなイベントなどで不特定多数の方に発行
市役所、中央公民館においてポイントと交換ができる

とんぼ紙幣



6

たつの市地域通貨『とんぼ』

◇ 地域通貨『とんぼ』について

地域通貨『とんぼ』をもらう方法

- 参加者相互のやり取り（助け合いの感謝のしるし）
- まちづくり活動やボランティア活動などに参加
 - ・ みはらしの森整備ボランティア
 - ・ 沿道花壇の手入れ（草引き・水かけ）
 - ・ 福祉施設での広報紙配布先別仕分作業
 - ・ イベント運営ボランティア
 - ・ 清掃ボランティア



△ 清掃ボランティア（参加受付）



△ 清掃ボランティア（清掃作業）

- 国民宿舎でのエコ活動
 - ・ 洗面具を持参、売店レジ袋を辞退など

7

たつの市地域通貨『とんぼ』

◇ 地域通貨『とんぼ』について

地域通貨『とんぼ』を使う方法

- 参加者相互のやり取り（助け合いの感謝のしるし）
- 公共施設の利用
 - ・ 文化施設
赤とんぼ文化ホール、龍野歴史文化資料館、室津海駅館、室津民俗館、
霞城館・矢野勘治記念館
 - ・ スポーツ施設
龍野体育館、新宮スポーツセンター、摂保川スポーツセンター、御津体育館
 - ・ 国民宿舎
赤とんぼ荘、志んぐ荘、新舞子荘
- その他
 - ・ コミュニティバス …… バス乗車賃に利用
 - ・ 観光売店「さくら路」 …… 食事・商品割引
 - ・ 社会福祉協議会 …… 移送サービス
 - ・ 龍野ショッピング（16店舗）など …… 商品割引
 - ・ 風あけ祭りなどのイベント …… 飲食券の交換
 - ・ 市役所 …… 市指定ゴミ袋と交換

8

たつの市地域通貨『とんぼ』

◇ 地域通貨『とんぼ』について

参加者の募集、PR活動

- 地域通貨フォーラム in たつの市（平成18年11月19日（日））



△ 会場案内



△ 参加受付



△ 基調トーク



△ 地域通貨カフェ



△ 地域通貨カフェ



△ システム体験コーナー

9

たつの市地域通貨『とんぼ』

◇ 地域通貨『とんぼ』について

参加者の募集、PR活動

- オータムフェスティバル in 龍野（平成18年11月23日（木）～26日（日））

地域通貨200とんぼで、龍野地区を人力車で廻るサービス



△ 出展受付窓口



△ 人力車

- たつの市風あけ祭り（平成19年1月21日（日））

地域通貨100とんぼで、豚汁券、ラーメン券、コーヒー券と交換



△ 会場風景



△ 地域通貨の交換



△ システム体験コーナー

10

たつの市地域通貨『とんぼ』

◇ システムの運用内容

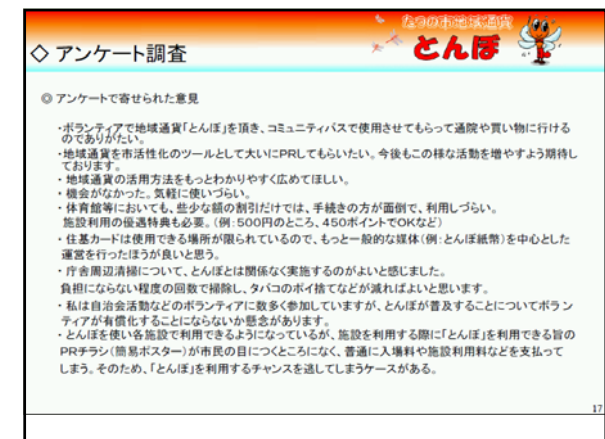
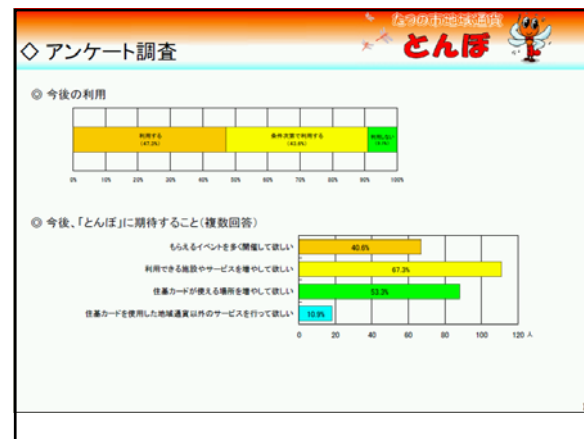
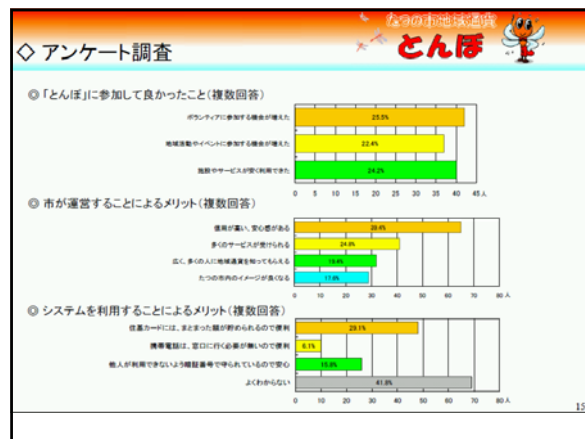
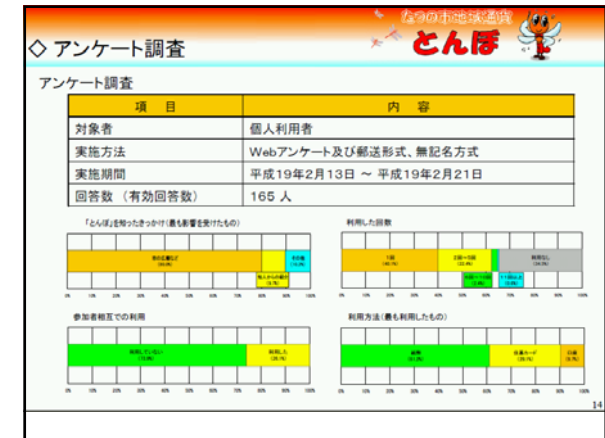
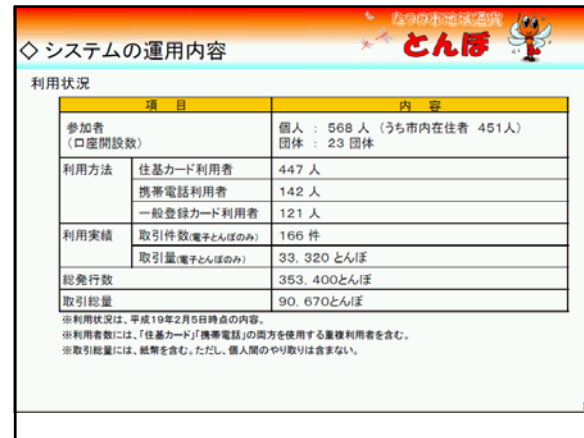
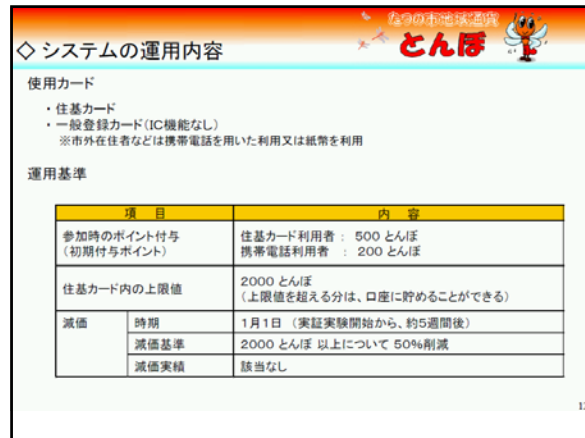
システム利用形態：標準型

- ・ センターサーバによる口座管理
- ・ 住基カード（ICカード）による財布機能 …… 暗証番号による本人確認
- ・ 携帯電話を用いたモバイル利用 …… 機体識別情報＋暗証番号による本人確認

使用機器

種 別	用 途	
ノート型端末	・ イベントでの地域通貨の受け渡し	
職員端末	公共施設用	・ 公共施設での地域通貨の受け渡し ・ 参加者相互の地域通貨の受け渡し
	市役所、中央公民館用	・ 参加者の登録（中央公民館不可） ・ 住基カード（ICカード）の発行（中央公民館不可） ・ 紙幣との交換
携帯電話	・ 参加者相互の地域通貨の受け渡し	

11



現在のまちをよみがえす

**とんぼ**

◇ 実証実験において見えた課題

○ 「とんぼ」の周知

現状では、「とんぼ」の認知度が低いいため、広く市民にPRし、全市での盛上げを行う必要がある。特に、とんぼがもらえる・使える場所の情報は、「とんぼ」が利用できる施設の目立つ所にPRチラシを貼るなど、工夫が必要である。

○ システムの改善

現状では、端末の設置場所が限られているため、住基カードでの利用が容易に出来ないなど、利用者にとって不便である。端末の設置場所を増やす、又は紙幣を中心として運営を行うなど改善が必要である。

18

地域SNS 全国フォーラム

～地域SNSが、地域を変える、社会を変える～



入場無料
(先着申し込み順)

日時 2007年8月31日(金) 午後1時～5時
(開場 午前10時)

場所 兵庫県公館

神戸市中央区下山手通4丁目4番1号
神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車すぐ
JR・阪神「元町駅」西口下車徒歩5分



第1部 パネルディスカッション
(13:00～15:00) ～地域SNSが、地域を変える、社会を変える～

第2部 分科会① 地域SNSでコミュニティ活性化
(15:30～17:00) 分科会② 地域SNSを活用した地域間交流
分科会③ 地域SNSと電子地域通貨の連携

ホームページで最新情報を公開しています。 <http://www.bb.banban.jp/hyogo/>

主催 兵庫県・財団法人地方自治情報センター・ひょうごふるさとづくり交流会議

後援 総務省(申請中)・NHK神戸放送局 協力 NTT西日本兵庫支店

問い合わせ・申し込み先 ひょうごふるさとづくり交流会議事務局 電話078-362-9014 ファックス078-362-3950

全体会 (パネルディスカッション) 13:00～15:00

地域SNSが、地域を変える、社会を変える

21世紀の井戸端会議とも称される地域SNSなどの新しいコミュニケーションツールを活用することによって、地域がどうか変わっていくのか、ひいては、日本社会がどうか変わっていくのか、大局的な視点から議論する。

- 遠藤 薫 (学習院大学法学部教授／日本社会情報学会会長)
岡田真美子 (兵庫県立大学環境人間学部教授、(特)千姫プロジェクト理事長)
田中敦仁 (総務省自治行政局自治政策課情報政策企画官)
牧 慎太郎 (兵庫県企画管理部長)
和崎 宏 (ひよこむ主宰、(特)はりまスマートスクールプロジェクト理事長)

分科会 15:30～17:00

第1分科会 地域SNSでコミュニティ活性化

兵庫県での取り組み事例の発表を中心に、地域SNSによるバーチャルなコミュニケーションとリアルな活動を連携させ、いかにして、地域づくり、コミュニティ活性化につなげていくかを考える。

- 千種和英 (空き缶でもうけてもええ会事務局長、佐用町情報懇話会委員) ■コーディネーター
前川裕司 ((特)コムサロン21理事長、姫路おでん普及委員会主宰) 立木茂雄 (同志社大学社会学部教授)
三坂友章 (宝塚商工会議所異業種交流会実行委員長) ■コメンテーター
三村園美 (西播磨文化会館生活創造活動コーディネーター) 木原勝彬 (ローカル・ガバナンス研究所所長)

第2分科会 地域SNSを活用した地域間交流

地域SNSは、地域における人と人のつながりを深めるとともに、地域の枠を越えた人的交流の輪を広げていく役割も果たしている。全国各地における地域SNSをきっかけとしたリアルな地域間交流の事例を紹介しながら、地域SNS間連携の可能性について議論を深める。

- はちのへ地域SNS「はちみ一つ」(青森県八戸市) ■コーディネーター
千代田区地域SNS「ちよっぴー」(東京都千代田区) 村上文洋 (三菱総合研究所主席研究員)
横浜地域SNS「ハマっち！」(イベント創造プラットフォーム運営委員会) ■コメンテーター
南房総地域SNS「房州わんだあらんど」((特)南房総IT推進協議会) 小林隆生 (熊本県八代市／ごろっとやっちょろ開発者)
「e-じゃん・掛川」(静岡県掛川市) 庄司昌彦 (国際大学GLOCOM 助教・研究員)
京都山城地域SNS「お茶っ人」(京都府宇治市)

第3分科会 地域SNSと電子地域通貨の連携

地域通貨の先進事例をもとに、地域通貨を生かした地域活性化方策について議論するとともに、地域SNSと連携した電子地域通貨の可能性を探る。

- 「てこな」(千葉県市川市) ■コーディネーター
「とんぼ」(兵庫県たつの市) 岡田真美子 ((特)千姫プロジェクト理事長)
「ハーン」(島根県隠岐郡海士町) ■コメンテーター
「泉都」(大分県別府市) 赤井俊子 ((特)丹波まちづくりプロジェクト理事長)
「察度」(沖縄県浦添市) 清原桂子 (兵庫県理事)

■ 全国各地の地域SNS紹介コーナー

午前から終日 (説明タイム 12:00～12:45、15:00～15:30)

■ 地域SNS関係者意見交換 午前中

全国の地域SNS主宰者が、課題、展望などについて意見交換します。

■ ランチタイムコンサート 昼食時

■ 懇親交流会 18:00～20:00 (会費制)
全国各地からきた仲間と交流しませんか。

■ オフ会 翌日(9月1日)
播磨、丹波で企画。詳しくはホームページをご覧ください。

問い合わせ・申し込み先《事務局》

ひょうごふるさとづくり交流会議 神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県県民政策部政策局地域振興課
電話 078-362-9014 ファックス 078-362-3950 メール seisaku_chiiki@pref.hyogo.jp

※ このままメール、ファックスなどでお送りください。(先着300人まで。どの地域の方でも参加可能です)

フリガナ 名 前		連絡先	電話	ファックス		
参加 メニュー 希望するものに○をつけてください	全体会	分 科 会			懇親 交流会	その他連絡事項があればお書きください。
		第1	第2	第3		